

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	保育士：必修
担当教員			
花城 暢一・澤田 須賀子・大橋 和博・藤野 正和			

講義概要	<p>1. 「保育実習Ⅰ」で体験し、習得した知識や理解内容をもとに、さらに施設保育士に必要な知恵や指導技術を身につけることができる。</p> <p>2. 児童福祉施設（保育所以外）、その他社会福祉施設の役割や機能について実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得することができる。</p> <p>3. 家庭と地域の生活に触れて、子ども、家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を身につけることができる。</p> <p>4. 児童に直接的に関わることを通して、児童や児童を取り巻く環境について理解を深めることができる。</p> <p>5. 保育士としての自己の課題を明確化することができる。</p>
授業計画	
授業形態	<p>実践実習 実習計画と学習内容 ＜保育所以外の施設実習（1日8時間以上×10日間）＞ （1）実習施設事前オリエンテーション（上記実習期間前に実施する） 実習施設の理解①：目的、沿革、運営方針、環境（地理的、物的、人的）、1日の生活の流れ、児童の姿、子ども・利用者の姿 実習施設の理解②：実習中の行事、実習計画（担当予定など）、実習中の心得（持ち物、服装等）、準備するものなど （2）実習施設での実習内容 1. 養護全般に参加し、養護技術を習得する。 2. 個人差や生活環境に伴う子ども・利用者のニーズの把握とその理解。 3. 子ども・利用者の観察や関わりを通して、児童の発達・利用者の援助を理解する。 4. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。 5. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。 6. 保育士としての倫理を具体的に学ぶ。 7. 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。 8. 多様な専門職との連携や、地域社会との連携について学ぶ。</p>
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>本学保育学科（保育士養成課程）で習得した教科全体の知識や技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、子どもに対する理解を通じて保育の理念と実践の関係について習熟させることを目的とする。</p> <p>実習中のサービス内容（20%） 実習日誌（30%） 実習施設からの評価（40%） 巡回訪問指導（10%）を総合して評価をおこなう。</p>
教科書・参考書	
履修条件	<p>オリエンテーションを事前におこない、実習生カードの提出や必要であれば車両通勤許可を得て、オリエンテーション報告書を学校に提出し、持参する必要書類（腸内検査等含む）を揃え、実習遵守事項を確認の上捺印し本実習にのぞむ。</p>
履修上の注意	
オフィスアワー	<p>授業、会議、実習巡回、出張等が入っていない場合は随時対応します。</p>
備考・メッセージ	